



Mercedes-Benz

メルセデス・ベンツ C クラス

Press Information

2015 年 12 月 4 日

## プラグインハイブリッドモデル「C 350 e AVANTGARDE」を発表

- ・ 「アジリティ&インテリジェンス」Cクラスに新たにプラグインハイブリッドを追加
- ・ ガソリンエンジンと高出力電気モーターを状況に応じて使い分けることで、ガソリンエンジンモデル、EV、ハイブリッドモデルの特長を生かしたハイパフォーマンスを発揮するプラグインハイブリッド
- ・ メルセデス・ベンツが誇る安全運転支援システム「レーダーセーフティ」を標準装備

メルセデス・ベンツ日本株式会社(社長:上野金太郎、本社:東京都港区)は、メルセデス・ベンツ「C クラス」のラインアップに「C 350 e AVANTGARDE」「C 350 e AVANTGARDE STATIONWAGON」を追加し、全国のメルセデス・ベンツ正規販売店ネットワークを通じ本日より注文受付を開始します。なお、発売は 2016 年 1 月を予定しています。

Cクラスは1982年に「190クラス」として登場以来、動力性能や快適性、安全性などあらゆる面において常にセグメントの指標とされ、世界で累計1,000万台以上販売したモデルです。昨年7月にフルモデルチェンジを行った現行のCクラスは、「アジリティ&インテリジェンス」のコンセプトに基づき、素材選びから設計、製造工程に至るまであらゆる部分にメルセデスが誇る最先端技術を投入することで、大きな進化を遂げて生まれ変わりました。「2014-2015インポート・カー・オブ・ザ・イヤー」(主催:日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会)\*、「2014-2015日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー」(主催:特定非営利 活動法人日本自動車殿堂)、「2015年次RJCカーオブザイヤー:インポート」(主催:NPO法人日本自動車研究者ジャーナリスト会議)のインポートカーオブザイヤー三冠、また「2015ワールドカーオブザイヤー」を受賞するなど、専門家の方からも高い評価を受けています。

\*「2014-2015 インポート・カー・オブ・ザ・イヤー」(主催:日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会)は、Cクラスセダンとして受賞

Cクラスのラインアップは、1.6リッター直列4気筒BlueDIRECTターボエンジンを搭載する「C 180」、「C 180 AVANTGARDE」、2.0リッター直列4気筒BlueDIRECTターボエンジンを搭載する「C 200 AVANTGARDE」、「C 250 Sports」、2.2リッター直列4気筒BlueTECクリーンディーゼルエンジンを搭載する「C 220 d AVANTGARDE」、Mercedes-AMGが専用開発した高出力の3.0リッターV6直噴ツインターボエンジンを搭載する「C 450 AMG 4MATIC」、メルセデスAMG社が完全自社開発したAMG 4.0リッターV8直噴ツインターボエンジンを搭載した「Mercedes-AMG C 63」に至るまで、直4、V6、V8のガソリンエンジンとクリーンディーゼルを幅広く取り揃えています。今回、プラグインハイブリッドモデルの「C 350 e AVANTGARDE」をラインアップに加えることで、お客様に新しい選択肢をご提供します。

## パワートレイン

C 350 e AVANTGARDE のパワートレインには、「C 250 Sports」に搭載される最高出力211PS(155kW)、最大トルク350Nmの2.0リッター直列4気筒BlueDIRECTエンジンに、最高出力82PS(60kW)、最大トルク340Nmを発生しブースト機能も併せ持つ高出力の電気モーターを組み合わせました。

システム全体で279PS(205kW)/600Nmを発生し、ガソリンエンジンと高出力電気モーターを状況に応じて使い分けることで、ガソリンエンジンモデル、EV、ハイブリッドモデルの特長を生かしたハイパフォーマンスを発揮するプラグインハイブリッドモデルです。最新世代エンジンと高出力モーターによる途切れのない加速感を提供します。

また、市街地から高速道路まで幅広く電気モーターのみで走行が可能です(最高速度:130km/h)。航続距離は最大約30km(セダン:28.6km/ステーションワゴン:28.8km)です。

なお、走行中にも回生ブレーキなどによりバッテリーの充電を行うため、充電設備が無い場合でも電気モーターのみでの走行が可能です。

このシステムは、以下の4つのモードを備えています。

HYBRID：走行環境やバッテリーの残量に合わせてエンジンと電気モーターを併用します。高出力電気モーターのブースト機能により途切れの無い加速感を味わうことができます。

E-MODE：電気モーターのみで約30kmの走行と最高速度130km/hの走行を実現し、市街地から高速道路まで静粛性に優れたドライビングを楽しむことができます。

E-SAVE：その時点でのバッテリーの充電レベルを維持します。

CHARGE：走行しながらバッテリーを充電します。

JC08モード燃費は、セダン:17.2km/L、ステーションワゴン:16.5km/Lです。なお、欧州複合モード燃費はセダン/ステーションワゴン共に2.4~2.1L/100km(41.7km/L~47.6km/L)と、優れた燃費性能を有しています。

リチウムイオンバッテリーの充電時間は、フル充電まで「CHARGE」モードで約40分\*、AC200V電源使用で約4時間です。大容量のリチウムイオンバッテリー(6.2kWh)を搭載しながらセダンのトランク容量は335L、ステーションワゴンのラゲッジルーム容量は350~1,370Lを確保、プラグインハイブリッドモデルであるにも関わらず、十分なユーティリティ性を確保しています。

\*:自社調べ。道路状況や運転の仕方により満充電に必要な時間は前後します。

## インテリジェンス

C 350 e AVANTGARDEは、安全性と快適性を高次元で融合したメルセデスが誇る革新的テクノロジー「インテリジェントドライブ」の新たな追加機能として、「インテリジェントアクセルペダル」を備えています。

プレッシャポイント機能：アクセルペダルの抵抗を増してドライバーに知らせることにより、モーターのみで走行するEVモードと、エンジン+モーターで走行するハイブリッドモードの切替ポイント：プレッシャポイントが分かります。

ダブルパルス機能：レーダーで先行車両との車間距離と速度差を計測し、アクセルペダルに2回のノックパルスを発生させることにより、アクセルペダルから足を放す適切なタイミングをドライバーに知らせます。この機能により、燃費の向上とともに運転のストレスを軽減します。

C 350 e AVANTGARDEは、エコカー減税において自動車重量税、自動車取得税が100%免税となり、さらにクリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金をセダンでは最大17万円、ステーションワゴンでは最大13万円受けることができます。

なお、メルセデス・ベンツのプラグインハイブリッドモデルは、S 550 e longに次ぐ2車種目となります。

メルセデス・ベンツは日本において、ガソリンハイブリッド、クリーンディーゼルハイブリッド、プラグインハイブリッドの3種類のハイブリッドをラインアップに揃える唯一の自動車ブランドです。

メーカー希望小売価格(消費税込み)は以下の通りです。

モデル	ステアリング	エンジン	メーカー希望小売価格 ( )内は消費税抜き価格
C 350 e AVANTGARDE	右	2.0L、直4直噴 +ハイブリッド	¥7,070,000 ( ¥6,546,297 )
C 350 e STATIONWAGON AVANTGARDE	右	2.0L、直4直噴 +ハイブリッド	¥7,820,000 ( ¥7,240,741 )

\* 上記の価格は、付属品価格、税金(消費税を除く)、保険料、登録に伴う諸費用は含まれておりません。また「自動車リサイクル法」に基づく、リサイクル料金が別途必要となります。メーカー希望小売価格は参考価格です。販売店が価格は独自に定めておりますので、詳しくは各販売店にお問い合わせ下さい。

「C 350 e AVANTGARDE」にも新車購入から3年間走行距離無制限の一般保証(製品不具合の修理)・メンテナンス保証と24時間ツーリングサポートを提供する総合保証プログラム「メルセデス・ケア」が無償で適用されます。さらに、メルセデス・ケア終了後は有償保証延長プログラムとして、一般保証および24時間ツーリングサポートを2年間延長する「保証プラス」と、4、5年目のメンテナンスにおいて、初回車検時および4年目の点検や定期交換部品、消耗部品の交換をパッケージでご提供する「メンテナンス プラス<sup>\*</sup>」をご用意しています。

\* 新車登録日から59ヶ月後の応当日の前日または総走行距離75,000km到達時のいずれか早い時点で終了となります。



C 350 e AVANTGARDE



C 350 e STATIONWAGON AVANTGARDE

進化した安全運転支援システム「レーダーセーフティパッケージ」

フロントウィンドウ内側に画角 45°に配置されたステレオマルチパーパスカメラが、前方約 50m までの路面を 3 次元映像データとして立体的に捉えます。この映像を高度なアルゴリズムによって分析することで、先行車両や対向車両、横切る車両、歩行者などを検出し、自車との距離や運動のタイプによって分類します。さらに、リアバンパーに設置されたマルチモードレーダーセンサーにより、車両後方の安全性を確保しています。

- **ディストロニック・プラス(ステアリングアシスト付)** : 77GHz(長距離)および 25GHz(短距離)の 2 種類のレーダーセンサーによって先行車を認識して速度に応じた車間距離を維持し、減速が必要な場合はスロットルおよびブレーキを段階的に自動調整してスムーズに減速し、先行車が停止した場合は自車も停止します。レーダーセンサーとステレオマルチパーパスカメラが車線のカーブと先行車両をモニターすることでステアリング操作のアシストを行うステアリングアシスト機能が追加され、先行車両への追従がより容易になりました。
- **BAS プラス(飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス)** : 短距離/長距離の 2 種類のレーダーセンサーとステレオマルチパーパスカメラが、先行車だけでなく前方を横切る車両や合流してくる車両、歩行者や道路上の物体との衝突の危険性を検知した場合、ディスプレイと音で警告します。ドライバーがブレーキを踏むと、BAS プラスが衝突を回避するための強力な制動力を発揮できるようブレーキ圧を高めます。飛び出し検知機能は時速 72km/h 以下で作動します。
- **PRE-SAFE®ブレーキ(歩行者検知機能付)** : BAS プラス(飛び出し検知機能付ブレーキアシスト・プラス)の警告にドライバーが反応しない場合、軽いブレーキングでドライバーを警告し、衝突回避をサポートします。同時に衝突時に乗員の最適な姿勢を可能な限り確保する PRE-SAFE®機能も作動します。それでもドライバーが反応しない場合、最大のブレーキ力で自動緊急ブレーキが作動します。なお、時速 50km/h 以下の場合には警告ブレーキのみで衝突を回避するのに十分な制動力が得られます。今回、先行車に加え歩行者も検知することが可能となり、衝突予防安全性が大幅に向上しました。
- **リア CPA(被害軽減ブレーキ付後方衝突警告システム)** : リアバンパーに設置されたマルチモードミリ波レーダーが後方の車両を監視し、車間距離と接近速度から衝突の危険があると判断すると、リアコンビネーションランプを素早く点滅させて後続車のドライバーに警告します。それでも後続車が十分に減速しない際には自動的にブレーキ圧を高めて自車をロックし、玉突き衝突の回避など二次被害の軽減をサポートします。

- **アクティブブラインドスポットアシスト**: 車両の斜め後ろのドアミラーの死角範囲をリアバンパー左右の短距離レーダーセンサーでモニターし、ドアミラー内蔵のインジケーターが赤く点灯して警告を行います。警告の最中にウインカーを作動させると警告音とともにインジケーターが点滅し、さらに側面衝突の危険を検知すると、片側車輪に対して補正ブレーキが作動してコース修正を試みます。
- **アクティブレーンキーピングアシスト**: ステレオマルチパーパスカメラが車線を検出し、フロントホイールが走行車線を越えたと判断するとステアリングを断続的に振動させてドライバーに警告します。ドライバーが反応しない場合は自動補正ブレーキによって車両を車線内に復帰させます。

#### ドライバーを支援するその他のシステム

- **クロスウインドアシスト**: ESP<sup>®</sup>のセンサーからの情報をもとに横風の影響を検知し、必要に応じて車両片側のブレーキ制御を行い、安定した直進をサポートします。
- **アダプティブハイビームアシスト・プラス**: ステレオマルチパーパスカメラが前方の状況をモニターし、対向車や先行車など他の車両にハイビームが当たらないように自動的に照射範囲を制御しつつ、常に最大限の視界を確保します。
- **アクティブパーキングアシスト**: パークトロンニックの超音波センサーを用いた拡張機能で、縦列駐車および並列駐車の際に駐車可能なスペースを検知し、駐車を開始するとステアリングおよびブレーキが自動制御され、ドライバーはアクセルとシフト操作のみで駐車が可能です。駐車スペースから出る際も同様にステアリングとブレーキ操作がアシストされます。

#### アルミニウムハイブリッドボディ

ボディシェルのアルミニウム使用率を約50%と、量産車としては類を見ないレベルに高めながら、高張力鋼板などを適材適所に組み合わせた革新的な軽量高剛性アルミニウムハイブリッドボディを採用しました。重心位置の低下によるスポーティかつ俊敏なハンドリング、NVH(騒音、振動、ハーシュネス)特性の最適化など、数多くのメリットをもたらしています。

ボディの製造工程において、メルセデス・ベンツは自動車メーカーとして世界で初めて、量産車に「<sup>インパクト</sup>ImpAcT(Impulse Accelerated Tacking)」接合方式を採用しました。これは、アルミニウムとスチールのコンポーネントを重ね合わせ、そこに高速でリベットを貫通させることで接合する技術です。ドアやボンネット、ルーフなど外板パネルの大半にアルミを採用することで、徹底した軽量化を実現しました。